

大浜飛行場 データ保存へ

玉名市 戦跡ネットが測量

「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和生代表)は18日、土地開発などで撤去される恐れのある戦争遺跡を記録しようと、玉名市の旧陸軍大浜飛行場内の戦跡を調査・測量した。

大浜飛行場は太平洋戦争中の1944年に開設され、少年飛行兵の養成や特攻部隊の継基地として使用された。終戦後、農地や住宅地となり、現在は飛行場内に点在していた施設の基礎など一部が残っている。

18日は正門や格納庫跡など3カ所を調査。同ネットワークのメンバー3人が各史跡を測

量した。測量データを基に当時の様子を図面で再現する予定。高谷代表(66)＝同市＝は「遺跡が私有地内にある、土地開発で撤去さ

れるケースが少なくない。測量しておけば、撤去後もデータで代用することができる」と話す。

測量データを基に作成した復元図などは、小冊子にまとめて今年夏ごろ公表する予定。(丸山伸太郎)



大浜飛行場跡に残る正門を測量する「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」のメンバーら＝玉名市